

## 審判員のミス防止策

審判員の皆さんはルールを深く理解していると思いますが、それにも拘わらず、時折、日ごろ決してしないような簡単なミスを犯してしまうことがあります。「トラブルの原因」となるこのヒューマンエラーをどのようになくして最良の結果を出すことが出来るかが判定のキーポイントとなります。ちなみにヒューマンエラーとは「脳の誤作動」の意味です。ただ反応するだけでなく、得た情報を十分に理解し、自分なりに解釈し、そのうえで行動につなげようとしています。しかし、そのような情報の処理の途中で“齟齬”（行き違い、食い違い）が生じることがある。エラー防止対策はこの“齟齬”の原因となる因子を無くすことだと言えます。

### ミス(エラー)が発生する要素

- あいまいなままで判断してしまう — 知識と経験不足による思い込み
  - 危険を軽視 — 慣れやおごりの気持ちから起こりうる
  - 不注意、錯覚 — あらゆる場面で起こりうる勘違い、見落とし
  - 疲労や加齢による機能低下
  - 場面行動本能 — 注意が一点に集中してしまい他のことを見落とす
  - 集団的欠陥 — 審判団の中で暗黙裡にルールを犯している状態
  - 近道、省略行動 — 定められた手順を遵守しない
  - パニック — 予期しないことが起きた — 判断力の欠如
  - コミュニケーション、及びチームワークの不足
- ※それぞれ一つが原因となるだけではなく、複合的に複数のパターンが混在する場合も多々ある

### 事前の対策と現場での対応

- ルールの理解度を深めておく — ルールのブック、及び規定書に記載がない実際の運用
- 講習会に頻繁に参加する
- 自身で定期的にジェスチャーなど練習を行う — いろいろの場面を想定し複合的におこなう
- 宣告する前にそれぞれの判定を自身の頭の中で確認する
- 平常心を極力保つ(不安、迷い、偏り)
- 一人一人が責任を自覚する

## 人間の情報処理モデル

